

第5学年 国語科学習指導案

1 単元名 響き合う伝記の世界～名言カレンダーを作ろう～

「やなせたかしーアンパンマンの勇気」(光村図書 5年)

2 単元設定の理由

本学級の子供は読書に意欲的で、朝の読書の時間や休み時間には自分の気に入った本を手に取り、夢中になって読んでいる。あらゆるジャンルに目を向けられるように、担任が定期的な読み聞かせをしたり、町立図書館と連携し、月に1度図書を借りて、学級に「〇〇コーナー」を設置したりするなどしてきた。また、語彙を豊かにするために、子供は「言葉集めブック」を作成し、国語辞典を手に取り、楽しみながら言葉集めをしている。しかし一方で、文章を読むこと自体に抵抗があり、読書に苦手意識をもっている子供も数名いる。読んでいても、筆者の考えを正確に読み取れなかったり、文章量の多さから理解することに困難さを感じたりすることも一因となっていると考えられる。そこで、本単元では、伝記に描かれた人物の「生き方」から自己の生き方について考えを広げ、深められるようにする。楽しみながら自分が理解したことについて考えをまとめ、表現することを通して、文章を正確に読み、そこから考えたことを的確に表現することが今後の言語生活を豊かにすると考え、本単元を設定した。

子供たちはこれまでに文学的文章として、4月の「銀色の裏地」では、表現に着目して、人物の心情や関わりを子供自身の経験と重ねながら捉えた。10月の「たずねびと」では、中心となる人物が出会う人やものの役割を考えるなどして、物語の全体像を想像し、戦争や平和について自分の考えをもち、友達と伝え合う学習を行った。また、説明的文章として、5月の「見立てる」「言葉の意味が分かること」では、事例・理由や論の展開に着目して要旨を捉えた。9月の「新聞を読もう」では、書かれた目的や対象を踏まえて、自分の知りたいことにあった新聞や記事を選んで読み、11月の「固有種が教えてくれること」では、文章以外の資料を用いた効果を考えながら読んだ。これらの学習を通して、言葉や表現に着目して読み進め、自分の考えをまとめる力が身に付きつつある。しかし、自他の考えの特徴に気付いたり、自分の考えをより明確にしたりして、考えを広げ深めるまでには至っていない。そこで、友達と話し合う中で、互いの考えの違いを明らかにし、よさを認め合い、自分の考えを広げたり深めたりする。

本単元では、興味をもった伝記から心に響いた言葉や考えを取り上げる。取り上げた人物や人物像、名言に対する自分の解釈や説明、今後の自分自身の生き方について日めくりカレンダーにまとめ、友達に知らせることを主たる言語活動とする。限られた紙面内に収まる文章量となるため、文章を書くことに対する抵抗は少ない。既習学習を生かし、言葉や情報を取捨選択しながら自分が伝えたい情報を限られた文章量でまとめることで、言葉を吟味し、日めくりカレンダーを作成する。子供が楽しみながら伝記を学ぶことができる言語活動だと考える。

本単元で扱う教科書教材「やなせたかしーアンパンマンの勇気」では、やなせたかしさんの人生を通して、人物像、「生きるとは何か」「本当の正義とは何か」「本当の勇気とは」を考えながら読み進めていく。ここで学んだことをモデル学習として、自分の取り上げた伝記の読みへとつなげる。

第1次では、単元の活動目標を明確にし、学習計画を立てる。第2次では、「やなせたかし」の人物像を読み取り、自分の心に響いた言葉や考え、それらに対する自分の解釈や説明を日めくりカレンダーのワークシートにまとめる。まとめる際には、自分の解釈等をグループで話し合い、自分の考えを広げ深められるようにしたい。第3次は、モデル学習を生かし、それぞれが選んだ伝記から読み取った人物の生き方と、これからの自分の生き方とを関連づけることで、伝記を読む力の育成を図って

いきたい。

3 単元の目標

(1)子供の活動目標

お気に入りの伝記を読んで、名言カレンダーを作ろう

(2)指導目標

○ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるようにする。 「知識及び技能」(3)オ

○ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるようにする。

「思考力、判断力、表現力等」C(1)イ

○ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるようにする。

「思考力、判断力、表現力等」C(1)オ

○ 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度を育てる。 「学びに向かう力、人間性等」

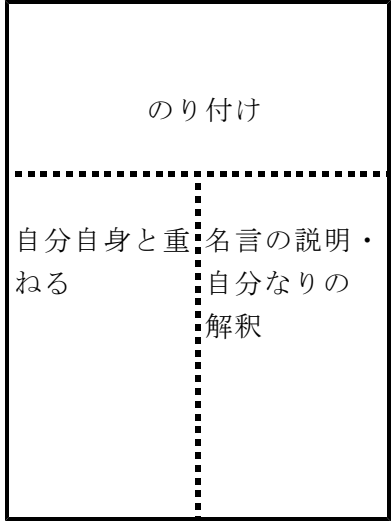
4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。 (知(3)オ)	「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(思C(1)イ) 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(思C(1)オ)	進んで文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめ、学習課題に沿って文章を書こうとしている。

5 指導計画(全8時間)

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	【第1次】 ○伝記を読み、名言カレンダーを作る計画を立てる。	◇事前に「伝記コーナー」を設けて置き、興味のある人物の伝記を読み進めるようにする。その際には、年代や残した功績など、幅広い内容の伝記を用意することにより、子供が興味をもった伝記を見付けることができるようにする。	
2 ・ 3 ・ 4	【第2次】 ○「やなせたかしーアンパンマンの勇気」を読み進めながら名言カレンダーのワークシートにまとめていくモデル学習に取り組む。 ・伝記に取り上げられている出来事確かめ、「やなせたかし」の行動や考えたことをまとめる。 ・「やなせたかし」の言動や考えたことから、筆者が捉える人物像を読み取る。 ・「やなせたかし」の生き方について、自分の心に響いたところを見付ける。	◇名言カレンダーに模したA4版（全2ページ）の書き込み型の学習の手引き①を用意する。 <div><div>人物の 写真</div><div>月日</div><div>人物像</div><div>名言引用</div></div> <div>1</div> <p>全ページを上下二段に分ける。1枚目上段には取り上げた伝記の人物の写真と、月日を記入する欄を設ける。下段には、人物像の部分と名言引用の部分についての欄を設ける。2枚目上段は、1枚目とののり付け部分とし、下段は名言の説明・自分なりの解釈部分の欄と、自分自身と重ねる部分の欄を設ける。</p> <p>また、人物像の部分には伝記の人物の人生での出来事や業績、残した言葉などから考える人物像を短</p>	<div>〔思・判・表①〕 学習の手引き①</div> <div>【人物像】【名言引用】【名言の説明・自分なりの解釈】【自分自身と重ねる】各箇所に書き込んだ内容の確認</div>

くまとめる。名言引用の部分には、自分の変容することにつながる名言を記入する。これらの部分を記入できるように、「やなせたかしーアンパンマンの勇気」を読み進める際には、心に響いた言葉や気になる文に線を引いておくようにする。



2

- ◇「心に響いたところ」「自分もそうありたいと思ったところ」など、いくつかの視点を示すことにより、子供が言葉や文を見付けられるようにする。
- ◇心に響いた言葉や気になる文はスクリーンショットをしてMetaMoJi ClassRoomに貼りつけておき、それを印刷して手元に持っておくことで、名言カレンダー作りがスムーズに進むようにする。
- ◇取り上げた語や文が、適切であり、かつ、自分自身と重ね合わせる部分や自分なりの解釈の部分が関連づけられているかどうかを見直すように促す。

〔主①〕
学習の手引き①

【人物像】【名言引用】【名言の説明・自分なりの解釈】【自分自身と重ねる】各箇所に書き込んだ内容の確認

5 ・ 6 (本時) ・ 7	<p>【第3次】</p> <p>○第2次で学習したことを生かして個別学習に取り組み、自分のお気に入りの伝記について、名言カレンダーを作成し、子供同士で互いの名言カレンダーを推敲する。</p> <p>・自分のお気に入りの伝記について、目的に応じて本を読み、学習の手引き③に入力する。</p>	<p>◇観察・学習の手引き②には、各箇所の書き出しや文末表現などを記載しておく。</p> <p>◇モデル学習を想起しながら、個別学習を進めることができるよう、学習の手引き③は、学習の手引き①と同じようなレイアウトにする。</p> <p>◇名言カレンダーの推敲の際には観点を示す。</p>	<div><p>〔知・技①〕 <u>学習の手引き③</u> 自分のお気に入りの伝記について、モデル学習を生かして記述した内容と取り組む様子の確認</p></div> <div><p>〔思・判・表②〕 <u>学習の手引き③</u> 【人物像】【名言引用】【名言の説明・自分なりの解釈】 【自分自身と重ねる】各箇所に書き込んだ内容の確認</p></div>
8	<p>【第4次】</p> <p>○完成した名言カレンダーを交流し、学習を振り返る。</p>	<p>◇名言カレンダーをタブレットで記録することで、今後の伝記や読書の学習にも生かせるようにする。</p>	

6 本時

- (1) 目 標
- ①子供の活動目標
- お気に入りの伝記を読んで、名言カレンダーを作ろう。
- ②指導目標
- 「やなせたかしーアンパンマンの勇氣」での学習を参考に、文章を読んで理解したことに基づいて、自分自身と重ねながら、自分の考えをまとめ、名言カレンダーの2枚目を作ることができるようにする。

(2) 展 開

時間	学習活動	指導上の留意点	具体の評価規準	評価方法
5分	1 前時の学習を想起し、本時のめあてを確認する。	1 何人かの子供に、前時の学習の振り返りを読むように促し、本時に学習することを確認する。 また、前時に名言カレンダーの1枚目についても何人かの発言を促し、本時への意欲付けを図る。		
	お気に入りの伝記を読んで、名言カレンダーを作ろう。			
15分	2 名言カレンダーの2枚目「名言の説明・自分なりの解釈」「自分自身と重ねる」部分を考え、入力する。 ○ 資料の大事なところ考える箇所に線や印をつける。 ○ 隣同士で確認し合う。等	2 文章を書き進めやすいようにするために、入力型の学習の手引きを用意する。 (配慮点) ○ 名言カレンダーに収める文章であることを伝え、字数を制限する。 ○ モデル学習を生かして書くことができるよう体裁を工夫する。		
10分	3 入力した文章をグループ内で発表し合い、話し合う。 ・「こんなところが心に響いたよ。こんな体験をしたことがあるよ。どのように書けばいいかな。」等	3 子供の入力画面を見ながら要点を再確認したり、発表内容を整理したりしながら板書する。		

15分	4 本時の学習を生かし、学習の振り返りを書く。	4 自身が2で書いた文章を基に、本時の学習を参考に加除修正して書くように指示する。	話し合いを生かして、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 〔思②〕	書き込み型の観察・学習の手引き③ (学習の記録)
-----	-------------------------	-------------------------------------------	---------------------------------------------------	-----------------------------

(3) 本時の評価

「十分満足できる」と判断される状況	話し合ったり、比較しながら読んだりすることを通して、今まで理解したことを基に自分の考えを深め、自分自身と重ねながら考えをまとめている。
「おおむね満足できる」状況にするための手だて	手引きや話し合いからどのように書くかを確認し、言葉を一緒に考えたり、示したりする。